

視覚 障害



その研究と情報

1980年 11月 No.50

I S S N 0385-7476

広辞苑

第二版
補訂版

新村 出編

古語・現代語を網羅し、百科項目をも広く採録した本辞典は、単に国語辞典としてだけでなく、専門辞典・百科事典として広く愛用されている。この補訂版は、第二版刊行以降の内外社会の変動、諸科学の進展にともなう言語生活の変化に対応し、増補修訂を加えたものである。
A5判・二四六頁五〇〇〇円（机上版） B5判九八〇〇円

岩波国語辞典

第三版

西尾 実
岩淵悦太郎編
水谷 静夫

全面改訂 第三版——激動の時代である。社会の変動にともなう日本語もまた大きな変化を示している。このような言語生活の動きに即して全面的な改稿を行ない、新たに一〇〇語を加え内容を一新した。今回は一層読みやすく、引きやすく、扱いやすいよう体裁上にも新機軸を出した。 B6新判・上製函入・二二六頁 一五〇〇円

岩波古語辞典

大野 晋
佐竹昭広編
前田金五郎

日本の古典を読むうえに必要な語彙四万三千を収録、豊富な用例に基づいて的確な語釈を定め、語源にさかのぼって語義の生成と歴史的な推移を跡づけた。在来の「古語辞典」の枠を脱した本格的辞典として斯界の注目を集める。高校生・大学生、日本語・日本文化に関心をもつ人々必携の書。 B6判上製函入・二五〇六頁 二二〇〇円

邦訳日葡辞書

土井忠生
森田 武編訳
長南 実

一六〇三（慶長八）年、日本イエズス会が長崎で刊行のポルトガル語で説明を付した日本語辞書の全訳。古代語から近代語への過渡期に当る織豊期の日本語三万二千余を採録し、つとに国語史研究に不可欠の文献とされてきた。邦訳は国語学、中世の歴史・文化の研究に新視野をひらき読書人に言葉の金庫を提供する。 B7判四頁二〇、〇〇〇円

岩波書店



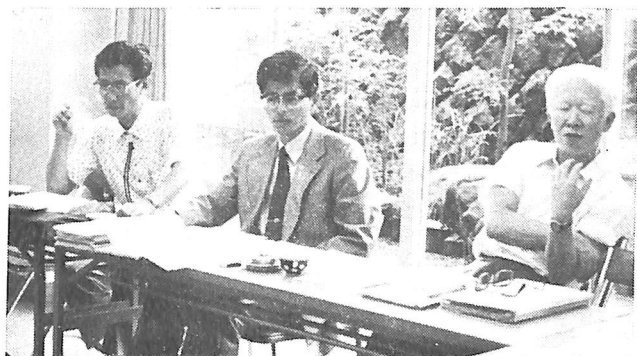
東京・千代田・一ツ橋
振替〈東京〉6-26240 千101
小社の出版物は全て定価販売です

日本の点字制定 90周年を迎えて



日本点字委員会の 審議風景

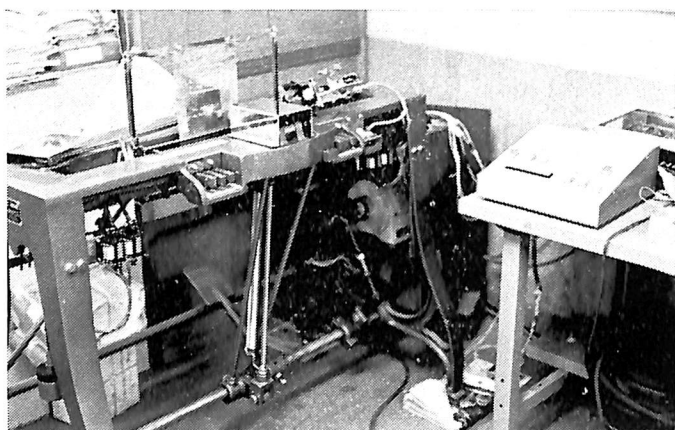
1966年に結成された日本点字委員会は、わが国の点字表記法を決定する唯一の機関である。



点字カセットシステムと自動亜鉛板製版機



日本点字図書館・東京工業大学・芝浦工業大学などの有志からなる点字カセットシステム研究会が開発した点字読み取り・編集機と自動亜鉛板製版機（製版機は小林鉄工所の製作）である。



日点の奉仕者が点訳した点字シートを読み取り、コンピューターで編集・校正し、自動的に亜鉛板に打ち出す装置である。

日本ライトハウスでも同種のシステムが開発された。

点 字 教 材 作 成 装 置

通産省工業技術院の委託により松下技研が、開発した点字読み取り・編集装置と日本タイプライターが開発したラインプリンターとを組み合わせ、松下通信工業が製品化したもので、点字用紙に書かれた教材や試験問題などを読み取り、編集・校正し、必要な箇所を必要な部数、高速で複製する装置である。



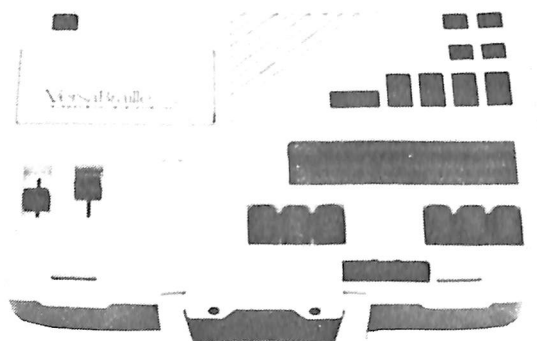
8 年間かけて全国の盲学校に設備される予定。

未来の点字読書機 ——ペーパーレスブレール——

将来の点字装置として世男各国で開発されているペーパーレスブレール（紙を使わない点字）のうち実用化の近いもの。

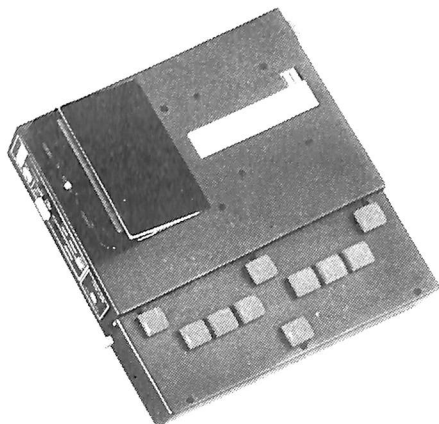
バーサーブレール

オプタコンを製作したアメリカのTSIが開発したもの



エリンファ

フランスのエリンファが開発したポータブル・ブレール・レコーダー



いずれも、キーを打つと電気信号の点字がカセットテープに記録され、必要な箇所を呼び出すと点字を表示するピンがとび出してくるしくみになっている。

目 次

1980年11月 No.50

2 ページ評論	松本 晶行	2
特集 要求運動の現状と課題		
堀木訴訟にかかわるものの一人として	小川 政亮	5
組織の力でここまで	村谷 昌弘	12
希望を持って大衆運動	橋本 宗明	16
大学門戸開放から雇用促進まで	本間 一夫	19
要求の「2本の柱」	大橋 由昌	22
職業選択の自由と三療業の発展	堀 利和	26
雇用こそ真の視障者福祉	五十嵐光雄	29
施設紹介 ベーチェット病患者の願いかなった リハビリテーション施設 社会福祉法人全国ベーチェット協会江南施設		
人・人・人 点字毎日文化賞受賞の山本卯吉さん		37
インフォメーション・コーナー		40
資料・機関誌『新時代』から研究と情報誌『視覚障害』へ		46
編集後記		61

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

それを巧みにコントロールしながら、夜しか働けない社員たちは、たいへんよくやってくれています。

こんな人件費のかからない出版は、普通では考えられないでしょう。世間並みにすれば、文月出版はとくに倒産しています。月刊ではないので、今回の郵便料値上げにより、いちだんと郵送費がかさむようになりました。印刷費も破格の費用でご協力いただきながら、徐々に上げざるを得ません。

私たちはこの雑誌を続けることに、また、各種の図書を発刊することに強い意義を感じています。スタッフが報われるのは、皆様から喜んで読んでもらえることです。

編集委員一同初め、スタッフも、また次号から気持を新たに本誌作りに励むことでしょう。皆様からの批判を含めたご支援を、心からお願いいたします。

(日本盲人福祉研究会

出版委員長 田中徹二)

視 覚 障 害 1980 年11月 №50

年間購読料 2,500 円 (送料とも)

発行日 1980 年11月 1 日

発行者 本間 一夫

編集者 松井新二郎

発行所 日本盲人福祉研究会

〒160 東京都新宿区高田馬場 1 丁目
日本点字図書館内 23 番 4 号

電話 (03) 200-1130

振替口座 東京 6-16103

印刷所 合同印刷株式会社

〒130 東京都墨田区業平 2-9-13
電話 (624) 6111 (代表)

協賛団体 日本点字図書館